

令和4年度 国立市まち・ひと・しごと創生懇話会 議事要旨

- 1 日 時 : 令和4年9月13日火曜日 14:00～15:40
- 2 場 所 : 市役所庁舎3階 第1会議室
- 3 出席者 : 【委員】
細野委員、荒木委員、田中委員、中野委員、榎本委員、竹内委員、濱崎委員
【事務局】
政策経営部長 宮崎、政策経営課長 簗島、
行政改革・情報政策担当課長 山本、政策経営課政策経営係長 佐藤
政策経営課政策経営係主任 林
- 4 傍聴者 : 1名
- 5 議 事 : (1) 委嘱及び自己紹介
(2) 座長及び副座長の選任
(3) 第2期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標及び重要業績評価指標（K P I）について
(4) 国の動向について
(5) 意見交換
(6) 今後の予定について
- 6 配布資料 : ・資料No.1 国立市まち・ひと・しごと創生懇話会委員名簿
・資料No.2 国立市まち・ひと・しごと創生懇話会設置要綱
・資料No.3 第2期総合戦略 重要業績評価指標（K P I）一覧
・資料No.4 デジタル田園都市国家構想基本方針について
・参考資料No.1 国立市の人口推移
・参考資料No.2 人口の動き（令和3年中）結果の概要【東京都総務局】
・参考資料No.3 区市町村、変動要因別人口（総数）【東京都総務局】
・参考資料No.4 区市町村別人口の推移（昭和31年～令和4年）【東京都総務局】
- 7 内 容
(1) 委嘱及び自己紹介
○ 市長より各委員に対して委嘱状の交付を行った。
○ 各委員より自己紹介を行った。

(2) 座長及び副座長の選任

- 委員互選により細野委員を座長と決定した。
- 副座長は細野座長より指名を行い、竹内委員が務めることと決定した。

(3) 第2期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標及び重要業績評価指標（KPI）について

事務局から資料No.3に基づき、重要業績評価指標（KPI）の実績値について、変化が顕著だったもの等について説明を行った。その後、参考資料No.1～4に基づき、国立市及び東京都の人口の動きについて説明を行った。

(4) 国の動向について

事務局より資料No.4に基づき、国は、まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）を策定予定であり、地方公共団体においても地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂が進められる予定である旨を説明した。

(5) 意見交換

議題(3)に関すること及び第2期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂に向けて、委員内で意見交換等を行った。

委員

- 資料No.3の4ページにある特殊詐欺被害件数について、犯人を逮捕した件数より国立市から出た被害届の件数が少ないという話を聞いた。なぜこのような状況にあるのか、高齢者や民生委員と意見交換をしたところ、被害にあったことを知られたくないという心理や、お金に困ってない等により、被害届を出していないケースがあるとのことであった。このことから、防犯対策について、出てきた数字にとらわれず、地域の方々の話を聞きながら強化していただきたい。
- この問題は、背景に高齢者の孤立という問題があるので、孤立させないための取組が必要である。

委員

- 定住化のため、学生のうちから地域と繋がる必要があるように感じる。

委員

- まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定背景は、人口減少及び高齢化率が高まることによる財政負担であると思うので、KPIに市の人口及び高齢化率があっても良いかと思う。そのような議論はあったのか。

事務局

- 人口に関して、国立市まち・ひと・しごと総合戦略における人口ビジョンにおいて、

人口推計及び人口展望について記載している。

委員

- 高齢化率、また人口における地区ごとの積み上げについてはいかがか。

事務局

- 人口推計は地区ごとの積み上げをしているところ。
- 高齢化率については、確実に増えていくものであるため、「抑制していく」というような位置付けになっている。

委員

- 出生率が目標値との差があるように感じるがどのように捉えているか。

事務局

- 答えが出ているものではないが、人口増加に向け、国立市は社会増が多い特徴も踏まえ、考えていく必要がある。

委員

- どのように若い力をまちづくりに活かしていくかが重要であるように感じる。市内に大学がある中、学生との取組みが何かあれば教えてほしい。
- 大学があることから、関係人口が毎年千人程度増えると思うが、その中の何%かでも定住することで、人口問題解消の手助けになるように思う。

事務局

- 学生と市が繋がりを持って取り組んでいるというより、学生がボランティア、サークル活動などにおいて、地域と繋がりを持って取り組んでいるような状況にあるように思う。
- 大学があることで、毎年関係人口が入ってくることは強みであると考えているが、定住化に向けた具体的な案は今のところない状況である。

委員

- いくつかのサークルにおいて、学生が地域で活動しているものがあるが、ゼミ単位で地域と関わりを持って取り組んでいる事例は把握していないところ。地域にはいろいろな受け皿はあると思う。
- 学生の頃に地域で活躍していた方は、大学を卒業した後も戻ってきていただけるケースが増えており、学生のうちから、国立市で活躍することが将来の国立市を支えることに繋がるように感じる。

委員

- 大学は従前より憩いの場になっていたが、今は広く開放されておらず、保育士の方からは、連れていく場がないという話があった。こちらについて何か対応はできないのか。

事務局

- 市から大学に伝えているところではあるが、コロナ禍であるため、広く開放していないとのことである。今後イベントなどは行っていきたいという意向もあるようなので、これからではないかと思う。

委員

- 資料No.3の12ページ、市有財産を活用した財源の創出額について、目標値と実績値に大きな差があるようだが、どのような背景か。

事務局

- 目標値について、公共施設等総合管理計画の中で、今後維持補修に必要な費用から不足額を算出しており、その不足額の財源を生み出すこととしているが、施設活用における財源の創出は実態のところ難しいという状況になる。

委員

- 第2期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、令和5年度に改訂を行うこととなるため、盛り込んでほしい内容やご意見等があればいただきたい。

委員

- 国立市からテレワークで仕事をしている人が増えているように感じる。
- これまでは都心に通勤していた人など、多種多様な才能を持つ方々が市内に残っている状況があるように思うので、この方々が少しでも国立市の課題解決に意識を向けてもらえるような後押しが出来れば、お金をかけずに新しいことが出来るように感じる。

委員

- 働き方と地域との関わりについて、なにかきっかけを持って取り組めたら素晴らしいように思う。

委員

- 23区から4万人程度転出されたが、多摩地域には10%程度しか転入しておらず、神奈川、埼玉、千葉などに多く分かれている状況にある。これは都心へのアクセスの点もあるが、それだけではないように思うので、国立市としてどう対策をとっていくかは大事だと思う。

委員

- 国立市は、都心からは近くないが、地価が高いという状況にある。その中で誰を呼び

込むのか、ターゲティングが重要である。また、現在都心部の地価が上がりすぎているため出ていることがあると思うが、いつ逆流するか分からない状況にあると思う。

委員

- 地域コミュニティについて、自治会・町内会のカバーする力が落ちており、自治会等があっても機能していないところもあるような状況である。
- 自治会・町内会に頼って地域と市が繋がることは難しくなっている。コミュニティ施策を考えるにあたっては、若い方がNPO団体を立ち上げ、地域で活躍している例がいくつもあるので、こうした動きを市の施策と繋げる、協働の新しい形が必要であるように感じる。
- 学習支援の取組をしており、不登校のお子さんとオンラインで大学生が繋がるサポートを行っている。市全体として、いろいろな方向でデジタルを進めていただきたい。
- 福祉について、もっとデジタルと繋がることで、産業になる等、新しい展開があるように感じる。福祉と産業を繋ぐような新しい視点のアイデアが必要かと思う。

委員

- 国立市は、創業支援等、地域への施策は多く行っているように感じるが、国立市で企業・創業したいという方が賃料や競合が多い等から辞められるケースがある。
- 国立市内で事業を創業するにあたり、継続していくための長い目の支援が必要であると思う。また、地元の方が地元にお金を落としていただく施策がもう少し必要かと思う。
- 国立駅周辺がクローズアップされるが、回遊性が重要であり、国立市全体を観光として回れるような仕組み・仕掛けがあるとよいと思う。

委員

- 国立市は道路網が弱いイメージがある。観光のためにはバスが必要になるため、道路整備を進めることが必要に感じる。

委員

- 国立市において、ウェルビーイングをまちづくりの目標として、「健康まちづくり戦略」を進めており、これは市がこれまで進めてきた事業をウェルビーイングという観点で編み直し、どう見直していくか考えるものである。

委員

- 一人一人の可能性「ケイパビリティ」はとても重要で、住民と直接関わる現場でなければ引き出せないものである。
- このような中、ウェルビーイングを方向性として出していくことは大賛成であり、是非進めてほしい。

委員

- 総合戦略の改訂に向けて、コロナ禍等で社会状況が大きく変わっているため、分析をしっかりとすべきであり、例えば人口をテーマにすると、転入者を増やす、転出者を減らす、一世帯当たりの子どもの人口を増やす、この3点がある。
- 中央線沿線で国立市だけ人口減になっている状況があるため、転出者の世代や出生率について分析し、どこを強化すべきか決めるべきである。
- 開発用地が少なく、都心から遠い状況の中、どう差別化し、なにを訴えていくかを意識すべきである。例えば、子育て世帯への支援について、明石市、流山市など先進的な市もある。
- ソフトの差別化、街なみの上質さの差別化、教育の差別化などを検討し、遠くて、高いが国立はいいということを誰に訴えていくかが重要であり、方向性を示すことが出来ればPRもしやすいと思う。

委員

- 人口問題について、社会増減は短期的に変動するが、自然増減は予測ができ、長期的な戦略がとれるものである。人口増加に向け、どのように自然増に持っていくのか、そのためにどのようなターゲットの人を呼び込むのか、どういうアピールをするのかを考えることで、国立が選ばれる街になるように感じる。
- 近隣市とは、人口を取った取られたということではなく、連携を進める必要がある。
- 国立市ならではの突出したものを持つということを考えていかなければならず、人口分析と他自治体との連携を幅広く考えていく必要がある。

(4) 今後の予定について

- 1 議事要旨については要点記録で委員に確認後、市ホームページにて公開予定。
- 2 令和4年度の会議は今回のみとし、次回は令和5年度に開催を予定している。

以上